

**楠木正成** 武将。敵方からも一目置かれた南朝方の名将で、建武政権樹立の功労者。戦上手で伝説化された。

くすのきまさしげ

・ ・ ・ ・ ・ 1294 = 生。楠正遠の子というが出自は不明。

・ ・ ・ ・ ・ 1303 = **9歳** :

・ ・ ・ ・ ・ 1312 = **18歳** :

**後醍醐天皇**・1318 = 24歳 :

後醍醐親政始1321 = **27歳** :

金剛山のふもと赤坂を本拠とし、和泉、北紀伊にもかかわりを持つ。鎌倉幕府打倒を企てる**後醍醐天皇**は、**藏人日野俊基**、**醍醐寺報恩院の文観**、**道祐**を通じて**正成**を反乱計画に引き入れ、

・ ・ ・ ・ ・ 1330 = **36歳** :

元弘の変・ ・ 1331 = 37歳 : \***兵衛尉正成**は、**後醍醐**が**道祐**に与えた和泉国若松荘の所領に姿を現す。**後醍醐**挙兵後は悪党として追及され、本拠赤坂城で幕府軍と戦ったが敗北、吉野の**護良親王**と連繫しつつ潜行する。

・ ・ ・ ・ ・ 1332 = 38歳 :

**鎌倉幕府滅亡**1333 = 39歳 : \***後醍醐**、**護良**に与えられたらしい左衛門尉の官途を名のって紀伊北部に出現、湯浅氏を破って味方とし、**摂河泉**に進出、天王寺、赤坂城、千早城などに幕府の大軍を引きつけ、野伏を駆使、飛礮を打つなど、悪党的戦法によってこれを悩ました。この大功により、**後醍醐**の新政府成立後、検非違使、河内守、河内・和泉の守護として、記録所、雑訴決断所など、新政の多くの機関に名を連ね、河内国新開荘、土佐国安芸荘、出羽国屋代荘、常陸国瓜連等、多くの所領を与えられ、名和長年、結城親光、千種忠顕とともに三木一草の一人としてもてはやされた。

二条河原落書1334 = 40歳 : **護良**失脚後、新政府内での動きは精彩を欠き、紀伊飯盛山の北条氏余党の反乱鎮圧に出動したが、まもなく**斯波高経**と交替している。

**南北朝分裂**・1336 = 42歳 : \***新政府**に反した**足利尊氏**、**直義**が入京するや、いったんこれを九州に追ったが、その大胆な献策を朝廷にいれられぬまま、再挙東上した**尊氏**らの軍を兵庫の湊川で迎えうち、敗死した(湊川の戦)。